

---

# やさしい王様

独マサ

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

やさしい王様

### 【Nコード】

N2492D

### 【作者名】

独マサ

### 【あらすじ】

あるところにやさしい王様がいました。平和な毎日をおくっていたある日、悪魔がやってきたのです。

あるところに王様がいました。大変優しい王様で、国中の人々から愛されていました。

王様はみんなの期待に応えるために一生懸命がんばっています。時には苦しいこともあります。しかし国民の笑顔を見ることが、元氣を取り戻しては、努力をしていました。

そんなある日平和なこの国にあくまがやってきて、悪さを繰り返すようになりました。

空から人に泥をぶつけたり、窓を割ったり、食べ物盗んだり、家畜をおどろかしたり。

思いつくことをあくまは、どんどんやっていきました。

王様はあくまを捕まえるために兵士を送りましたが、あくまはすばしっこくて、追いつめても空を飛んで、逃げてしまいました。

しかし大人数に一人ではかきません。あるときあくまが油断し寝ているところを取り囲み、つかまえることに成功しました。

王様の前につれられてきたあくまに、王様はたくさん怒りました。そしてこうたずねました。

「どうして人の嫌がることばかりするんだ!!」

あくまは答えました。

「幸せそうな顔を見るとむかつくんだ。困ってる顔や嫌がる顔を見るとうれしくなるからさ! おれは悪魔だからな。」

それを聞いた王様の怒りは爆発しました。

「こんなあくまはすぐに殺してしまえ!! すぐに処刑の準備をしろ!」

命令をうけた兵士達が、中庭で処刑の準備をととのえました。

あくまはもうころされるのをまつばかり。

少し落ち着いた王様はあくまに言いました。

「最後になにか言うことはないか?」

するとあくまはいきなり泣き始めました。

「悪かった。わるかったよう。もう嫌がられることはしないから。許してくれ」

王様はしかし聞き入れません。

するとあくまはさらに泣きじゃくりました。

「本当は一人でさびしかったんだ。あくまだーって言ってみんな逃げてしまっただけだ。」

だから、みんなの注意をひこうとしたんだ。仲間になりたかっただけなのに……」

こう言うのです。

王様はドキッしました。国を平和にするためにがんばっているのに、国民は自分達が困っているときだけやってくる。王様のころも実はさびしかったのです。

あくまが可愛いそうに思えてきました。

「あくまは、ほんとうはさびしくて嫌がらせをしてたと言おう。みんなに仲間にしてあげるように言ってあげよう。」

こう言うてあくまを許してあげました。

あくまはもうこれ以上ないくらいの喜びようです。

王様は国の民を集めると事情を説明しました。みんなは一応納得して、あくまを仲間として受け入れました。

あくまは国に住み、生活を始めました。空を飛べるので、郵便やさんとして働きました。

国のひとの中にはよくしてくれる人もいて、あくまは幸せでいっぱいでした。

しかし。多くの人は係わりを持とうとしませんでした。それどころかあくまに嫌がらせを受けたことがある人たちが中心になって、すこしずつあくまをいじめるようになりました。

仕方ありません。憎しみのこころを抑えられなかったのです。あく

まは我慢しました。何をいわれようと、石をなげられ、水をかけられ、笑われても、王様への感謝の心があったので我慢続けました。いじめはさらにひどくなり、ついにはしつぽを切られました。そして耳さえも片方切られてしまいました。あくまはもう我慢できませんでした。ついに怒りのところに火が付きました。なにがなんだかわからなくなつたあくまは、いじめられた人達の家やそこらじゅうに火をつけ周り、壊しました。その火が風にあおられて広がり、町のほとんどをやきつくしてしまつたのです。

家を失つた人々は怒り、あくまを探しましたが、どこにもいません。怒りやら悲しみやらに包まれた感情はもう止まりませんでした。その矛先はあくまをゆるした王様に向けられました。人々は王様を殺して、お妃様や王の一族を全て殺してしまいました。

王様を失つた人々は、多くの人がおれが次の王様になると言つて争いを始めてしまいました。ただでさえ焼かれていた街も、畑も建物も焼かれ、疑いと憎しみであふれかえりました。多くの人が殺し合い、食べ物はなくなつていきました。

そうです。この国は亡んでしまつたのです。

もしもあのとき王様があくまを許さずに処刑しておけば、こんなことにならなかつたかもしれせん。もしもあなたが王様ならどうしましたか？

そうそう、あくまはどこかへ消えてしまいましたが、今もどこかで生きているかもしれせん。

(後書き)

童話ではなく、寓話です。  
軽く読んでもらえれば幸いです。

『悪魔のぬいぐるみ』

あ！くまのぬいぐるみ 程度のものですわ。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n2492d/>

---

やさしい王様

2010年11月16日08時32分発行